

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立南川副小学校		
1 前年度 評価結果の概要	様々な課題解決や教育活動推進に向けて、それぞれの担当を中心に組織で進めることができた。各指導部で方策を検討し、全職員で重点目標や成果指標をより意識し、改善に向けた教育活動に取り組んでいく。 ・学力向上については、依然として課題の残る結果だった。引き続き全国や県の水準に到達することを目標とし、教職員の指導力向上を図る。 ・児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、自立活動の計画や個別の指導計画の作成等を行う。困り感を持った児童を早期に発見し、コーディネーターを中心に組織的に対応していく。保護者への啓発や関係機関との連携も充実させていく。 ・長期にわたる不登校児童への対応を中心に、校内でのケース会議や必要に応じて関係機関と連携したチームでの対応を行う。また、ここにアンケートや教育相談週間を通して、未然防止にも努める。全校で、相手のことを考えて行動する児童を育てる取組を進めていく。		
2 学校教育目標	自分を磨く子どもの育成 ～主体的に学び 心豊かに たくましく 生きる南っ子～		
3 本年度の重点目標	【確かな学力を磨く】 【豊かで多様な感性を磨く】 【健やかでたくましい心身を磨く】	(1) 「主体的・対話的で深い学び」へ (1) 豊かな心と多面的考え方の育成 (1) 健やかな体とたくましい心づくり	(2) 指導力の向上 (2) 特別支援教育の充実 (2) 安全・防災教育
4 重点取組内容・成果指標	(3) 時代が求める課題への対応 (3) 特別活動 (3) 生徒指導・児童理解		

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○「わかった・できた」と実感できる授業づくり	●学習の場において、自分の思いや考えを正しく伝えることができる児童80%以上	●南川副型授業において、導入の工夫や問題解決の見通しも持たせることで、自分の思いや考えを言葉や記述で表現させる。						
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを実施し、(生命尊重、親切・思いやり、規律の尊重、善悪の判断など)肯定的な回答80%以上 ○人権・同和教育の視点を常に持ち、日常の指導において、仲間作り及び望ましい集団づくりに努めている教職員を85%以上	●南川副型授業において、導入の工夫や問題解決の見通しも持たせることで、自分の思いや考えを言葉や記述で表現させる。 ・年2回人権教室を行い、互いの良さを認め合い、自己肯定感を高める取り組みを行う。 ・ふれあい道徳での授業実践を通信等を通じて家庭に知らせ連携を図る。						
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ問題には、必ず、管理職を交えた組織で対応する。「組織で対応している。」と回答をした職員100%	・毎月のここにアンケートで、児童の気になる言動や様子を把握し、毎月の連携会議でそれらを職員間で共有することにより、管理職を含めた組織として早期対応を行う。 ・認知した事案については、指導や謝罪が済んだ後、複数の職員で一定期間(3か月以上)見守り、解消に向けて対応する。						
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・道徳科や学級活動、総合的な学習の時間において、キャリアパスポートを活用することで、将来の目標や夢を意識して学校生活を送れるようにする。 ・月末に学期のめあての達成状況について、振り返りをする時間を設ける。						
	○不登校の未然防止	○「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と思うことができる児童を85%以上	・ここにアンケートを毎月実施し、児童の実態を把握する。その上で、児童への聞き取りを行い、家庭やSC等との連携を図る。 ・欠席日数が多くなってきた児童について、適宜、関係職員でケース会議を開き、児童の実態を把握し、教職員と関係機関で共通理解と連携を図る。						
●健康・体づくり	●望ましい食習慣の形成	○自分で決めた量を残さず食べることができる児童を90%以上	・保健や学活、道徳、家庭科等で食に関する内容を取り扱い、日々の給食指導に生かして意識を高める。						
	○「運動習慣の改善や定着化」	●運動やスポーツを行う時間が1日に30分以上の児童を70%以上	・スポーツチャレンジに関するイベントを保健体育委員会で企画し、全校児童でスポーツに取り組む機会を設ける。 ・朝の放送で運動や外遊びの呼びかけを行う。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日の定時退勤日や学期末特別校時を設ける。 ・PCでの校内連絡掲示板を活用し、職員間での伝達の効率化を図る。 ・長期休業期間を中心に、諸会議や研修をスリム化し、年次休暇取得促進日を設定する。						
	○教職員自らの働き方の改革と心身の健康保持への意識の向上	○アンケートで、「仕事が平準化できるように主体的に連携しようとしている」「働きやすい職場の雰囲気がある」について肯定的な回答90%以上	・3部会の中で、部長を中心として協力体制を確立させる。 ・生活指導、教育相談に係る諸問題の解決に、チームで取り組み、負担感の軽減を図る。						
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の更なる推進	○学校評価(保護者アンケート)で、特別支援教育の取組に対する保護者の理解度を90%以上にする。 ○講師を招聘し、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方並びに環境づくり等について研修会を1回以上行う。	・新入学説明会やPTA総会、特別支援教育に関する通信等で保護者や地域への啓発を図る。 ・「校内支援会議」で、全職員の共通理解を図り、指導・支援を行う。 ・SC、SSW、SSF、巡回相談等を活用し、困り感を持った児童の早期発見や効果的な支援の在り方を学ぶ機会を設ける。						

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ICT活用推進	○ICT活用推進	○授業や家庭学習で学習用タブレットを活用することができたと感じる児童が80%以上	・一人一台端末の活用について、長期休業中に一度スキルアップを図る研修を実施する。また、月1回程度ミニ研修会を希望者を募って行う。 ・4年生以上はタブレットを持ち帰り、家庭学習の充実を図る。						
○教職員の資質向上	○教職員の資質向上	○服務規律違反を0(ゼロ)にする。 ○職員アンケートにおいて、「指導方法の改善に努め、授業力が向上した」と回答した割合を90%以上	・月に1回「ゼロの日」の取組。 ・校内研究を核として、日々の授業を充実させ、相互授業参観を実施することで、授業力向上を図る。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育									
5 総合評価・次年度への展望									